

平成29年8月31日、政策秘書課職員との話です。

「ごちゃまぜ」が地方創生

平成27年国勢調査において、全国にある1,719市町村のうち、人口が増えた市町村は、わずか300市町村、17.5%でした。

日本中で超高齢・人口減少社会の問題が起きています。日本中が、その課題に向かって、頭を悩まし、知恵を絞っています。

本市は、平均年齢が若く、大型マンションの建設や商業施設の出店もあることから、全国で起きている超高齢・人口減少の問題を肌で感じにくいかもしれません。

しかし、今は、若いまちですが、本市でも確実に高齢化が進み、2050年には、高齢者は、今の倍の2万人になり、高齢化率も3割を超えます。つまり本市での超高齢・人口減少は、「いつか起きるだろう」ではなく、「いつ始まるか」「どんな状態になるのか」が、既に分かっているということです。それなのに、「今は関係ない」と問題を先送りにしていても、良いのでしょうか？

これまでの人口が増加する時代は、国が用意した政策を画一的に、行政が早く実施していくことが「良し」とされてきました。人口が減少していくこれからの時代は、「国にお任せ」ではなく、それぞれの地域が、それぞれの地域に合った方法を考え、地域の実力で実行していく必要があります。それが「地方創生」です。

「地方創生」のキーワードは、「ごちゃまぜ＝多様性」だと、国の地方創生担当の役人が話していました。地域の有り様は、「ごちゃまぜ」であることが自然であり、そこから新しい見方がもたらされ、革新が生まれ、地域の独自性、魅力になると言っていました。



ごちゃまぜの地域で、何かを実行しようとする、どうしても時間がかかりますが、これからは、時間がかかっても、自分達で考え、自分達で実行することが求められます。そこには、達成感、地域への愛着が生まれます。

本市で暮らしていると、人口減少、高齢化の問題を感じることは少ないかもしれませんが、そんな中でも、そこを敏感に感じ取り、自分達で動き始める市民の方が、着実に増えています。

そうした市民のみなさんの力が、長久手市の魅力になるのです。

～市長の話を聞いて～

異業種交流や多世代交流をされる人もいらっしゃるでしょうが、40代の私世代を含め、もっと若い世代は、異世代、特に年上と話す機会が少ないように思います。

次期総合計画の話し合いの場なので、違う年代の意見を聞くと、「そういう見方もあるのか」とハッとすることが多々あります。同じ年代、同じ興味のある人というのは、非常に楽ですが、『「ごちゃませ」になることで、新しい見方が生まれる』という国の役人の方の意見に納得してしまいました。